

「未来を創造していく 生徒の資質・能力の育成」

～深い学びを実現させる指導の工夫～

宮城県北部中学校技術・家庭科研究会
大崎市立古川東中学校 中鉢 羊子
栗原市立栗原南中学校 菅原 美香

1 はじめに

宮城県栗原市について

- ・ 岩手・秋田両県との県境に位置している
- ・ 「住みたい田舎ベストランキング2024版」 全国1位



1 はじめに

(1) 学習指導要領

(3) 家族・家庭や地域との関わり

ア 次のような知識を身に付けること

(ア) 家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解すること。

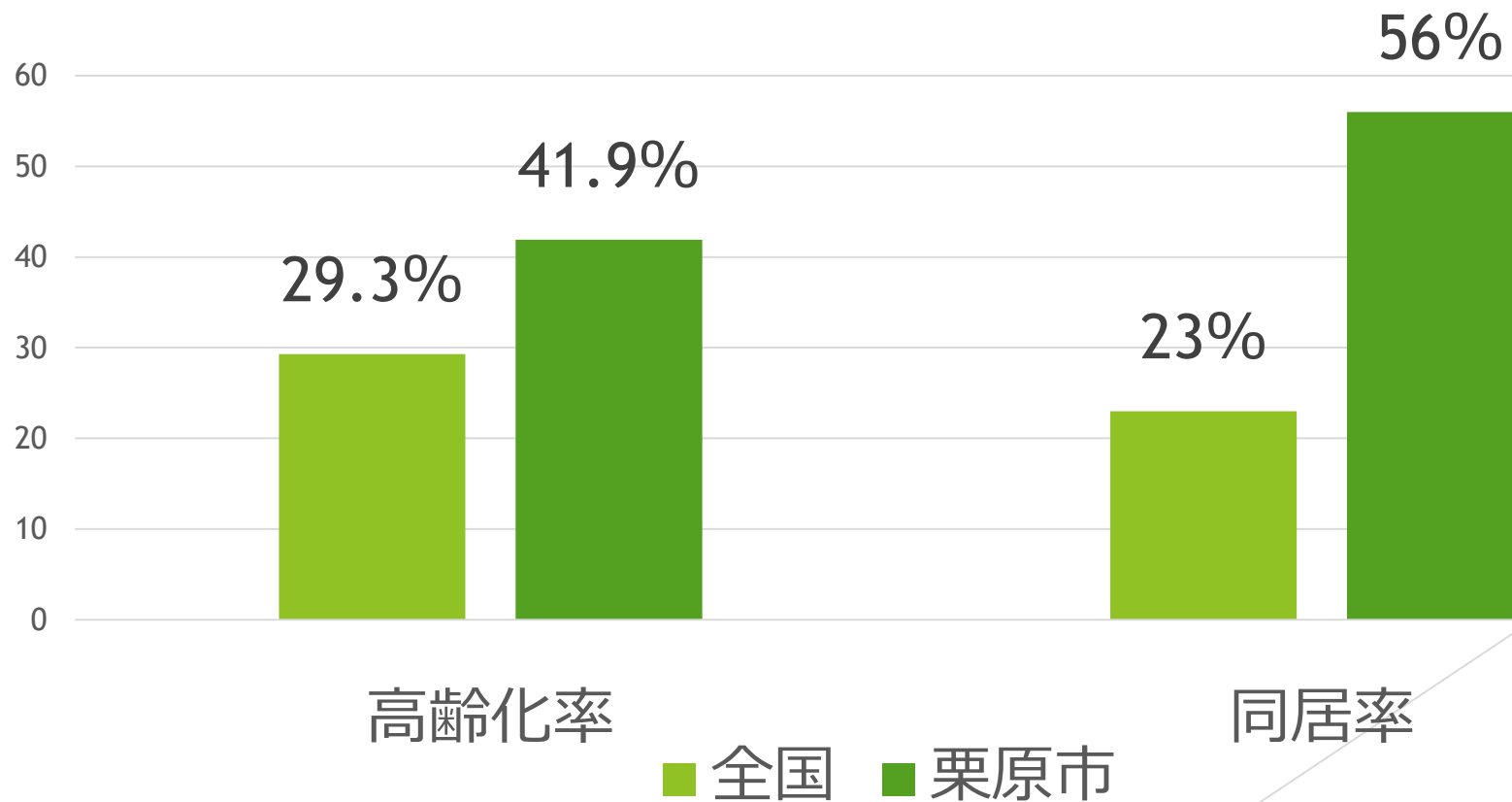
(イ) 家庭生活は地域との相互の関りで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関り方について理解すること。

イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々との関わり、協働する方法について考え、工夫すること。

1 はじめに

(2) 生徒の実態

全国との比較



2 研究のねらい

身につけさせたい資質

- ・ 変化の激しい中で、生活の中から課題を見いだす力
- ・ これまで学んだ知識や技能を生かして他の人と協働しながら課題解決に取り組む態度
- ・ 学習した内容を社会や生活に生かす能力

2 研究のねらい

具体の生徒の姿

- ① これまでの知識と社会や生活との「つながり」から問題を見いだすことができる生徒
- ② 教師や生徒同士、その他の「つながり」から課題解決を考えることができる生徒
- ③ 課題解決を通して学んだことを社会や生活に「つなげて」生かそうとする生徒

2 研究のねらい

研究主題・副題の設定

① 「未来を創造していく生徒の資質・能力について」

- ・ 生活の中から課題を見だし、課題設定をして解決する能力
- ・ 他者と協働しながら自分の考えを構想したり、表現したりする能力
- ・ 持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造しようとする実践的態度

② 「深い学び」

- ・ 見通しを立てる学習活動を取り入れる
- ・ 質の高い振り返り

3 実践内容

家庭科の授業での取組

(1) 具体的な手立て

① 高齢者疑似体験

高齢者疑似体験キットを活用

※栗原市内の中学校にある、高齢者疑似体験キットを借用し、短時間で多くの生徒が体験できるように工夫

3 実践内容

～ 高齢者疑似体験の様子 ～



3 実践内容

～ 高齢者疑似体験をした後の生徒の感想 ～

足が曲げられないから歩きづらく、普段の歩幅よりも小さくなった。また、前の方に引っ張られるから、腰は辛いしはずかった。前の方が重く感じた。高齢者の気持ちを理解することができた。

立っているだけで、疲れているような感覚になりました。特に、椅子に座るときが膝が曲がらないのでとても大変でした。高齢者の体の動かしづらさがよく分かりました。

3 実践内容

②長期休業を利用した 高齢者との関わり

○夏・冬季休業の2回実施

夏期休業中の課題で使用した
プリントです。

高齢者とのかかわり

年 組 番 名前 _____

1. 夏休み中に、家族や親せき、地域の高齢者の方と一緒に活動した内容をまとめてみましょう。

◆一緒に活動した内容

例) 夕方、一緒に近所を散歩した。庭の草取りをした。など

◆一緒に活動した際に、気を付けたことやお手伝いをしたこと

例) 階段を上るときに、上りやすいように手を貸した。
取った草を代わりに運んだ。 など

◆一緒に活動してみた感想

2. 自分の家族や親せき、地域の高齢者の方から話を聞いてみよう。質問3、4は自分で考えてインタビューしてみましょう。

◆インタビューした日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ()

・質問1：中学生だったころ住んでいた地域の様子を教えてください。

.....

.....

・質問2：この辺りは昔と比べて、どのように変わりましたか？

.....

.....

・質問3：[]

.....

.....

・質問4：[]

.....

.....

【 成果 1 】

～ 夏季休業中の活動の内容 ～

- ・ 夕飯の準備
- ・ 畑仕事
- ・ 草取り
- ・ 旅行
- ・ お墓参り

◆一緒に活動した内容

例) 夕方、一緒に近所を散歩した。庭の草取りをした。など

- ・一緒に夕飯の準備、後片付けをした。
- ・畑に種と一緒にまいた。・草取りをした。

◆一緒に活動した際に、気を付けたことやお手伝いをしたこと

例) 階段を上るときに、上りやすいように手を貸した。

取った草を代わりに運んだ。 など

- ・後片付けのとき、進んで皿を洗ったり、ゴミを捨てたりした。
- ・種を家産よりたくさん早くまいて、家族の負担を減らした。
- ・草を代わりに運んだ。

◆一緒に活動してみた感想

・高齢者の人はすぐ体が痛いといったり、すぐ休んだりするのかもしれないけれど、私達には体力があって、長い時間動いていた。でも、長い時間動いた分、体が痛いという1日が続くから、私と高齢者の人は身体の特徴が違うなと思った。

【 成果 2 】

～ 夏季休業中に高齢者にインタビューした内容 ～

「昔の遊びはどんなことをしていたのか」

- ・ まりつき
- ・ お手玉
- ・ なわとび
- ・ 空き地で遊んだ など

「昔と比べると大変なことは」

- ・ 病院が近くにない
- ・ 杖を使わないと歩けない
- ・ 物価が高くなった
- ・ 人との関わりが少なくなった など

◆インタビューした日 2023 年 8 月 6 日 (日)

・ 質問1：中学生だったころ住んでいた地域の様子を教えてください。

田んぼしかなかった。昔は神社があったからそこに集まって遊んだり、話したりしていた。地域の人はおん好優しく、あいさつをしてくれた。

・ 質問2：この辺りは昔と比べて、どのように変わりましたか？

昔は田んぼしかなかったけれど、今は道路が整備されたり、木が伐採されて建物がまったり豊かになった。けど木が伐採されたから、少し寂しくなった。

・ 質問3：【この辺りの良いところを教えてください。】

自然が残っているところ。
昔と比べて、森や田んぼは減ったけど、今もずっと変わらないうちところがある。

・ 質問4：【今、若い人に伝えてほしいことはありますか。】

あいさつが良いと思う。けれど、ゴミ捨てなどで見かけたことがあるから森や自然、動物のためにしっかりと自分の行動を気をつけてほしい。

【 成果 3 】

～ 夏季休業で高齢者と一緒に活動した生徒の感想 ～

- ・横断歩道を、信号が変わる前に渡るのも大変だったし、大浴場で滑って転ぶと危ないのでみんなと一緒に入ることはできませんでした。だから、歩くスピードをなるべく祖父に合わせるなど、寄り添ってあげることが大切だと思いました。
- ・祖母達の手伝いをするのができてよかったです。これからも手伝いをして、助けられるように頑張りたいです。
- ・手助けが必要な場面が多いから、自分から気付いて率先して手助けすることが大切だと思いました。

実践内容から「つなげる」

～夏季休業中の体験や 高齢者疑似体験を通して～

① 高齢者疑似体験をして
感じたことの振り返り

② 場面を設定し、
自分にできることを考える

③ 意見の共有

④ 冬休み中に
実践できることを考える

段階	学習活動 ・予想される生徒の反応	教師の指導・支援	形態	評価【観点】＜方法＞
見通す 5分	1 高齢者疑似体験をしてみ ての感想を話す。	・隣同士でトークタイムを行 うように指示する。 ・どんなことが不便だったか を話すように促す。	一 斉	
探究す る ・学 び 合 う 37分	G：高齢者との関わり方について、自分が実践できることを考えよう。			
	2 高齢者が料理をしている 際、困りそうなことを考えま とめる。	・高齢者疑似体験をした時の ことを思い出しながら、具 体的に記入するように指 示をする。 ・ロイロノートを使用して まとめるように伝える。	個 別	・高齢者と関わる方法に ついて実践を評価・改 善し、考察したことを 論理的に表現してい る。【思考・判断・表 現】（ロイロノート）
	3 高齢者が困らないように するために、自分にできる ことを考えまとめる。	・中学生の自分にできるこ とを記入するように伝え る。	個 別	
	4 まとめた意見を、全体で 共有する。	・気付かなかった意見やさら に聞いてみたいことがな いかを確認する。質問が あった場合は、その場で 確認させる。	一 斉	
	5 冬休み中に、高齢者との ようなかかわり方ができ るか考え、計画を立てる。	・家族や親せきと交流を持 つことを伝える。 ・考えがまとまらない生徒 には、夏休みに実践した ことを思い出しながら考 えるように声掛けをす る。 ・実践可能な計画になっ ているか確認する。	個 別	・家族や地域の人びと と協働し、よりよい生活 の実現に向けて、家族・家 域との関わりについて 工夫し創造し、実践しよ うとしている。【主体的 に学習に取り組む態度】 （ワークシート）
振り返る 3分	5 本時の学習内容をまとめ る。	・冬休み中に実践したこ とを、レポートにまとめ ることを確認する。	一 斉	

実践内容から「つなげる」

～ 冬季休業中の活動の内容 ～

- ・ 正月の餅づくり
- ・ 戦争や地震についての話
- ・ TVを見ながらお話
- ・ 買い物
- ・ おせちの準備
- ・ 一緒に食事
- ・ 散歩
- ・ 大掃除
- ・ 初詣

実践内容から「つなげる」

～ 意見共有をした後の生徒の感想 ～



実践内容から「つなげる」

～ 冬季休業で高齢者と接した際、 生徒が気を付けたこと ～

- ・ 段差があったら、手を添えてあげることを気を付けた。歩幅を合わせることもできた。
- ・ 高齢者が包丁を使うときは、見守ってあげることができた。
- ・ 杖で歩くから、祖父のペースに合わせて歩いた。段差があるときは、「段差があるからね」と教えてあげた。車が来たときは、早めに教えてよけられるようにした。

実践内容から「つなげる」

～高齢者インタビューから～

地域の中学生に望むこと

- ・ 地域の人に、気軽に明るく元気に挨拶をしてほしい
- ・ 話をしているときに、無視をしないでほしい
- ・ 人が来る街づくりをしてほしい
- ・ 年齢など関係なく、地域の人と仲良くしてほしい
- ・ 地域の人たちと、積極的にかかわりをもってほしい
- ・ 地域の伝統に興味をもってほしい

3 実践内容

他教科と共有した取組 (2) 具体的な手立て

「総合的な学習」

〈福祉体験学習〉

「地域包括支援センター職員による講話」

「高齢者疑似体験」

「車いす体験」

「高齢者施設の訪問」

3 実践内容

地域包括支援センターの活用

- ・ 職員講話
- ・ 高齢者疑似体験を行い訪問に向けて準備



1 学年で行う「衣服の洗濯と手入れ」三原組織の理解
「生活を豊かにするための布を用いた製作」の導入
としてフェルトコースターを製作。

高齢者施設訪問時のプレゼントとして渡した。

3 実践内容

～ 高齢者施設を訪問した際の 生徒の感想 ～

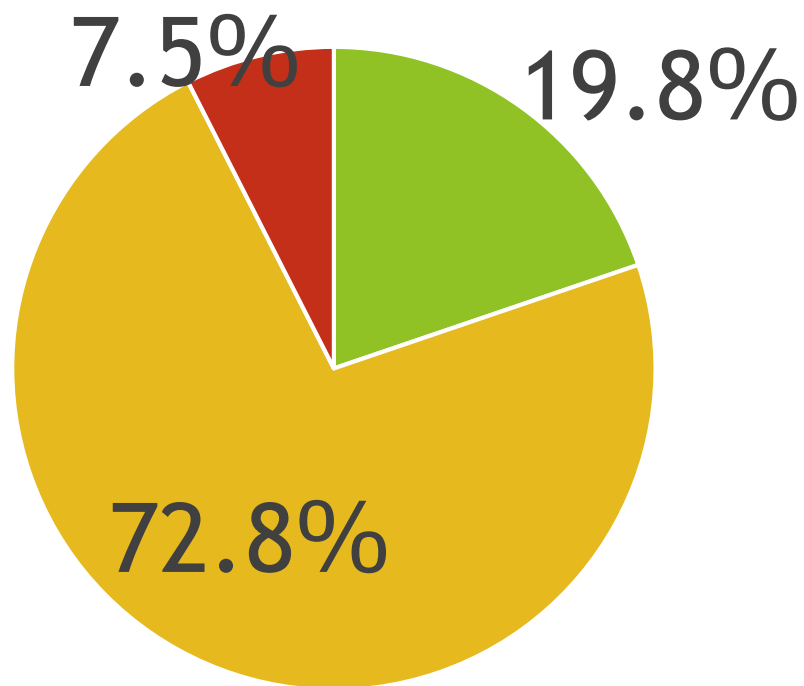


- ・ 高齢者と話すときはハキハキと大きな声で、目を合わせて話すことを意識したい。
- ・ プレゼントしたときにとっても喜んでくれたので、手作りの経験を活かして、家族にプレゼントしたい。

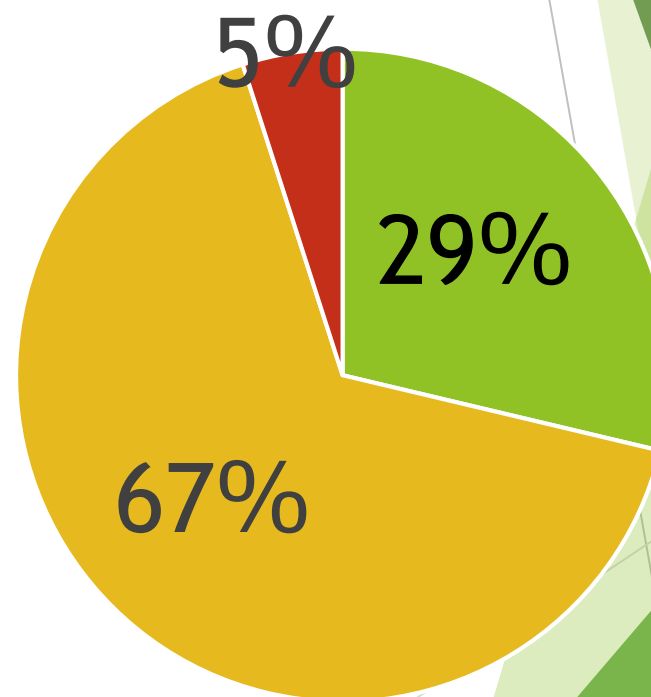
4 成果①

高齢者と関わる機会があったか

授業前



授業後

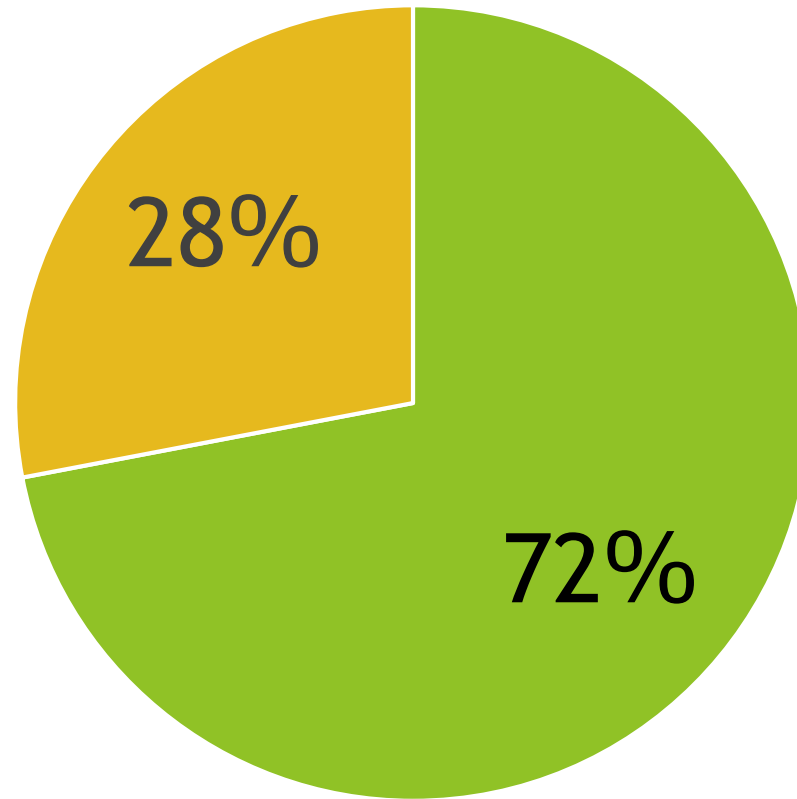


■ ある ■ 挨拶程度 ■ 全くない

■ 増えた ■ 変わらない ■ 減った

4 成果①

高齢者との関わり方について、考えが変化したか



■ 変わった ■ 変わらない

4 成果②

～ 考えが変わったと答えた理由 ～

- ・ 高齢者と関わる時に、安全面についても考えていきたいと思ったから。
- ・ 高齢者と話をする時は、はっきりと話すことを意識するようになったから。
- ・ 高齢者疑似体験をして、思っていた以上に体が動かしにくいことを知って、私もできることがないかと考えることができたから。

5 課題

- 自ら課題を設定し、解決するまで学習を深めるための工夫
- 他教科とのつながりを持たせる際は、時数確保などの工夫が必要となる
- 様々な家庭環境を配慮した実践内容の設定

6 研究のまとめ

- ① 高齢者と関わりを持つことで、自分ができることを考えることができるようになった。
- ② 挨拶をする、会話を交わすなどの些細なことで関わりを持てると気付くことができた。

ご静聴ありがとうございました。